

# 高山

たかやま  
高山の原生林を守る会

会報 第 128 号

2024年 3月



第 192 回観察会 奥土湯・男沼自然林観察会

伊藤 みゆき

自然観察会に参加させていただくのは水林自然公園に続き 2 回目になります。前回の自然観察会に参加して森の成り立ち、木々の特徴、花の成長過程の変化などを知る機会をいただき、今まで花や森の写真を撮りながら山を歩くことを楽しんでいましたが、表面しか見ていなかった事に気がきました。そこで今回は冬の奥土湯でどんな発見が有るのか楽しみに参加しました。

駐車場から男沼方面に登山道を進むと最初に出合ったのはミズキです。樹形は相對して枝が出るのが特徴、樹皮は縦線があり仲良しの地衣類をまとっています。歩きながら木々の特徴、新芽の様子などを教えて頂きました。特に記憶に残った樹皮の特徴はウリハダカエデのリボンの模様、イヌシデのツルツルした縦縞模様、森の中にシルバーに輝く美しい樹皮はウダイカンバなど。樹皮は成長過程で変化することもあるそうで見分けるのは難しそうです。



幹に面白いもの発見



飛び立つ蝶



カツラのアガリコ

また山にある紫陽花はヤマアジサイではなくエゾアジサイでヤマアジサイは関東にしかないという事も初めて知りました。枝先が赤色をしている美しい小木はアカシデで春に山が色づくのはアカシデの赤い花、イヌシデ、イタヤカエデの黄色い花の彩りだそうです。春になったらじっくり観察してみたいと思いました。

森にはこんなに多様な表情がある事に驚きでした。

説明してくださる代表はじめ、参加者の皆様はとて熱心で観察する様子は植物愛に溢れていました。

登山道から山中に移動すると幹周り 4メートルを超えるケヤキのアガリコ巨木がありました。奥土湯エリアで一番の大きさとのこと。ぐると一周すると何本にも幹別れし蔦に巻かれた姿は森の巨人の風格です。

そして男沼から地図の破線ルートを辿り名無し沼を超えた杉林の斜面にひと際大きい桂の大木が有りました。こちらも幹周り 4メートルを超え何本にも幹分かれた姿は圧巻です。ケヤキ、カツラの大木はメインの登山ルートから離れている為今まで存在を知りませんでした。

今回自然観察会に参加して、今まで気が付かなかった木々の表情や個性に魅了されました。そして奥土湯でひっそりと長い時を生きてきた森の巨人たちに命のエネルギーを感じ、畏敬の念を抱きました。

今後は樹木の個性にも目を向けながら山を歩きたいと思いました。これからも共に学ばせて頂きたいと思います。宜しくお願いいたします。



男沼

## メンダコについて

メンダコと呼ばれる風呂敷のような深海タコがいる。日本近海では駿河湾の直径 20cm ほどのメンダコと羅臼沖の直径 40cm ほどのオオメンダコが底引網にかかって水揚げされる事があるようである。

私は今年の 12/17(日)に、いわきのアクアマリンふくしまでオオメンダコが飼育展示されている事を知り、重い腰を上げた。各駅 JR の度重なる乗り換え、きわめつけはタクシーで、身体もおサイフもヘトヘトであった。

アクアマリンのオオメンダコは、羅臼沖で漁師さんのアミにかかったオスで、水深 1000m から引き揚げられた個体だそうだ。残念ながら昨年 12/24 のクリスマスに死んでしまったようだが、アクアマリンの深海魚飼育は優秀で、7/23～12/24 まで 155 日間飼育されたそうだ。日本メンダコ最長飼育記録である。

さて、オオメンダコの水槽に向かって観察すること 3 時間、オオメンダコくんは全く動かない。ごく稀に耳のようなヒレを上下にゆっくりパタパタさせている。展示が終わり、真っ暗になると動きだす事もあるようだが、客の視線や明かりはストレスのようで向こうを向いて背中しか見えない。飼育係によると、メンダコくんも我々を注意深く見ているそうだ。



メンダコ



アプ

このメンダコくん、いったい何を食べているのか？アクアマリンに電話して飼育係の女性に尋ねてみる。深海エビのヨコエビだそうだ。棒やガラス管からヨコエビをメンダコくんに近づけるらしい。YouTube でメンダコ、餌付けで検索すると、風に舞う風呂敷のように足が動いて、エサを口に運ぶ様子を見る事ができる。なかなかカワイイ！なんでヨコエビなのか？飼育係につっこむ。海外の文献にメンダコを解剖したら、胃袋からヨコエビとカイアシ類が出てきたそうだ。なんでオスとわかったのか？さらにつっこむ。普通のタコの吸盤は 2 列らしいが、メンダコは 1 列で、メスはきれいに一直線でオスは大きさがバラバラでジグザグという事がわかっているそうだ。吸盤のまわりには毛がはえていて、これでエサをさぐっているらしい。ちなみにメンダコくんは墨は吐かない。深海魚飼育は水温を 7～10 度に保ち、真っ暗にする事が鉄則だそうだ。

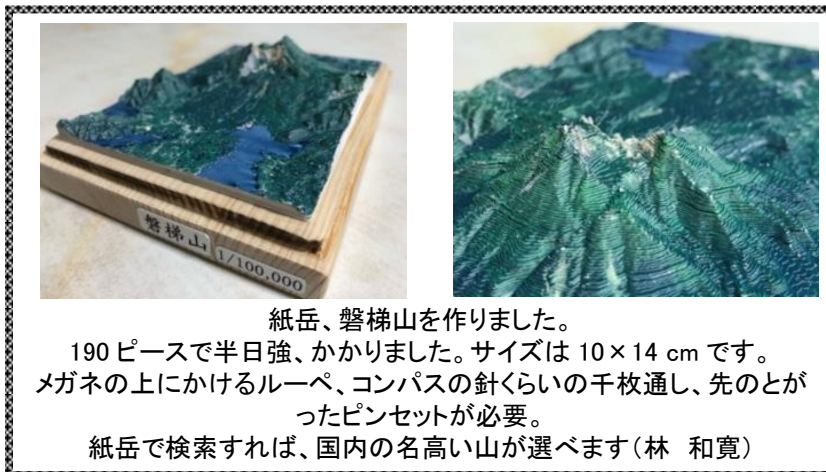
さて、メンダコくんは美味しいのか？不味いそうだ。深海魚はゼラチン質で海水を多く含み、塩っ辛いだけらしい。海から水揚げされてメンダコくんを掴むとシンナー臭が手につくらしい。葛西水族館や沼津水族館では、孵化に成功しているそうで、直径 5mm ほどの白い卵から 1cm ほどの白い透明なメンダコの赤ちゃんが生まれたそうだ。2.5cm ほどの卵巣の中に卵 2 個だったそうで、へたな鉄砲撃ち数撃ちやアタル式の産卵ではないそうだ。



アクアマリンふくしまのホームページには、あの展示されていた羅臼産のオスのオオメンダコくんが、耳をパタパタさせて、直径 40cm のアンブレラを広げて、優雅に泳ぐ姿の動画があるので、ぜひ観てください！とってもカワイイです！YouTube にはメンダコがダンスしている様子の動画、エサを食べている様子の動画、顔を洗っている様子の動画を見る事ができます。

アクアマリンふくしま、葛西水族館、沼津水族館、サンシャイン水族館、他の水族館！

日本の水族館、ステキです！



紙岳、磐梯山を作りました。

190 ピースで半日強、かかりました。サイズは 10×14 cm です。メガネの上にかけるルーペ、コンパスの針くらいの千枚通し、先のとがったピンセットが必要。

紙岳で検索すれば、国内の名高い山が選べます(林 和寛)

## ブラジル紀行 1

佐藤 守

1908 年に日本人がブラジルに最初に集団移住して 115 年が経過しました。現在、ブラジルに住んでいる日系人は約 200 万人。福島県と同じぐらいの人口になります。日系人は 3 世から 4 世の世代となりました。一方で 1980 年代から始まった日本への「デカセギ」で日本の日系ブラジル人は 20 万人を超え、2 世の時代になっています。国の位置は日本の反対側で、空間的には遠いですが、精神的には日本に近い国ブラジル。

35 年前から縁があり、5 回目のブラジル訪問をしました。今回は 46 日の長期滞在となりました。個人的にはマタ・アトランチカ (Mata Atlântica: 大西洋岸熱帯雨林) を歩くことをテーマにして渡伯しました。

マタ・アトランチカ (Mata Atlântica) は、ブラジルの大西洋岸に沿って分布する森林の総称です。ポルトガル語で「森」を意味する「マタ」に由来しています。北はリオ・グランデ・ド・ノルテ州から南はリオ・グランデ・ド・スル州まで 17 州、約 5,000km にわたって分布しています。マタ・アトランチカは、アマゾンと並ぶ世界有数の森林地帯で、約 20 万種の生物が生息しており、植物だけでも 2 万 5,000 種以上あるといわれています。生物多様性はアマゾンに匹敵しており、植物の密度では地球上で最も高いと言われていています。マタ・アトランチカは、土地開発や農地化の影響で深刻な危機にさらされており、現在ではもとの 7% 弱しか残っていません。



パウ・ブラジル

学名: *Paubrasilia echinata*  
国名の由来となった樹  
絶滅危惧種

環境保護の取り組みなど、日本では誤解されている面もあるブラジルの現在を理解して頂くきっかけになればと思い、紀行文をしたためることにしました。しばらくのお付き合いを。

### 1 多くの人種で構成された国ブラジル

ショッピングセンターなどに行くと個性的で多様なスタイルの市民があふれている。初めてブラジルを訪問した時にまず実感したことは、ブラジル人は多様な人種で構成されているということでした。ブラジル人は、コミュニケーションをとる時に、その人の肌の色を意識することは根本的にないといってもいいように感じます。これは生まれた時から多民族と接していることによると思います。日系人も 3 世になると日本語は出来ないのが普通となり、ブラジル語と英語を話す人が多くなっています。

ブラジル (Brasil 公式表記、Brazil は英語表記) は 1500 年にポルトガル人により「発見」されました。国土面積は 8,510,000 km<sup>2</sup>、日本の国土面積 378,000 km<sup>2</sup> の約 22 倍の広さを持つ国。この広大な国土を開拓するため、

ポルトガル植民地時代から、黒人奴隷制が敷かれ 1822 年の独立後も続いていました。

しかし、1888 年の奴隷制廃止により、コーヒー・プランテーションでは深刻な労働力不足となり、政府はそれまで進めていた移民受け入れを加速化しました。イタリア、ポルトガル、スペイン、ドイツなどの西欧に加え、日本、中国、韓国などのアジア、カナダなどの北米からも多くの人々が移住しました。ブラジルの民族構成は、欧州系が約 48%、アフリカ系が約 8%、東洋系が約 1.1%、混血が約 43%、先住民が約 0.4%で、混血系は欧州系に次いで 2 番目に多くなっています。これは民族間の婚姻が多いことを示しています。そのために、ブラジルでは民族間の差別は驚くほど少ない。それは、過酷な熱帯気候での労働で協働意識が高かったことが大きいと感じました。特に日系人は今でも協働意識は高く、3 世、4 世にも引き継がれています。

人種差別が少ないことと経済発展は別のことで、GDP 世界 12 位の経済大国ブラジルですが、貧富の差は依然として大きいのが現実です。ただ、勤労市民の生活レベルは日本よりも豊かではないかと思うこともあります。



ブラジル東北地方の早魃に苦しむ農民を描いた絵

## 2 紙とガソリンの消費量の少ない市民生活と世界有数のパルプ生産国

46 日間のブラジル滞在で、生活の中で紙の存在が希薄なことに気づきました。印刷物や包装紙など日本では普通に見られる紙製品が見当たらないのです。唯一、紙が必須なのはトイレの時のみ、その紙も日本より幅は小さく肌触りは固い。ティッシュボックスはあるが一般的ではないようです。紙の消費量は日本と比べると圧倒的に少ないと思いました。

ブラジルは車社会。移動距離が長く、車が無ければ生活は成り立ちません。その車の燃料は主としてサトウキビから作られたエタノールです。車の燃料として使えば、走行中に二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)は発生しますが、その CO<sub>2</sub> はもともと植物が光合成で大気から固定したものであるため、CO<sub>2</sub> は増えも減りもしませんのでカーボンニュートラルです。地球にやさしい燃料という事になります。ガソリンも売られていますが、価格はエタノールの方が安い。当然、市民はエタノール自動車を利用しています。



ユーカリ林  
「緑の砂漠」と呼ばれている

サンパウロ州の高速道路を走ると、いたる所でユーカリ林が目につきます。ユーカリ林がまるでブラジルを代表する森のようです。しかし、ユーカリはブラジルには自生していない外来種です。製紙企業が製紙用としてオーストラリアから持ち込み、植林したものです。成長が早いので、当初は荒廃地の緑化資源としても評価され、1965 年までにサンパウロ州のユーカリ植林は 50 万 ha に達しました。現在ではブラジルのパルプ生産量は世界のトップクラスで、70%が輸出されています。世界最大の紙パルプ生産国の市民は最小限の品質の紙製品を利用していることとなります。ユーカリはサトウキビ、コーヒー、ワタと並ぶマタ・アトランチカの衰退をもたらした主要因になっています。



ユーカリ林は貧相

ユーカリは、養水分の吸収力が旺盛で、そのために周辺の小規模農地の水源の枯渇化、土壌養分の劣化、葉の代謝成分による林床植物の生育阻害をもたらすなどの環境問題が指摘され「緑の砂漠」とも言われています。葉に有毒成分を含むためコアラ以外は食用にできないので、動物を扶養することはありません。一方で植林から 6 年で住宅の建築資材として商品化できるため、経営に取り入れる農家もあるのも事実です。また、成長が早いことから牧場の牛の休み場として植林されることもあります。現在では新たなマタ・アトランチカの伐採は規制されています。

(次回に続く)



## 吾妻・安達太良花紀行 96

佐藤 守

### オオバスノキ (*Vaccinium smallii* var. *smallii* ツツジ科スノキ属)

吾妻・安達太良連峰のミズナラ林から亜高山針葉樹林帯の湿り気のある林縁や湿原周辺に植生する落葉低木。和名の由来は、葉に酸味があり噛むと酸っぱいことによる。スノキが関東以西に分布するのに対し、オオバスノキは多雪地帯等の冷温帯林に分布する。名前はオオバクロモジとクロモジの関係に似ている。コケモモ、ウスノキ、ナツハゼなどもスノキ属の樹木であり、ナツハゼ以外は吾妻・安達太良連峰にも自生している。

葉は互生。葉形は長楕円形、葉の先端は穏やかに尖る。葉縁は赤味を帯び、細かい鋸歯がある。葉色は明るい黄緑色から緑色、赤味を帯びた主脈とのコントラストが美しい。葉柄は短い。秋にはあずき色に紅葉する。

花は頂性。前年に伸びた枝の先端に形成された花芽から総状花序を咲かせる。

小花はベルフラワーで、数個が着生する。ガクは円筒形で先が5裂する。花冠も先端が5裂し先は反転する。花の色は黄緑の地に赤いストライプが入るのが普通であるが、個体や植生する場所により筋状から全面着色まで多様である。雄しべは10本、雌しべは花冠から突き出る。果実は液果で黒い。山麓に植生するウスノキの果実は赤いので区別できる。

オオバスノキの花は着色具合が多様で、美しい。しかし、葉が展開してから、その下に小さな花を咲かせるため、気づかれることが少ないように思う。小花で花の色合いが多様な所はコウヨウラクツツジに似ているところがある。どちらも花の隠れファンが多いように思う。



### ワタゲカマツカ (*Pourthiaea villosa* var. *villosa* バラ科カマツカ属)

吾妻・安達太良連峰のクヌギ・クリ林からブナ林に植生する落葉広葉樹。やや乾いた林縁や尾根などに生育する。カマツカより寒冷地に多く自生する。住み分けはクロモジとオオバクロモジ、ヤマザクラとカスミザクラ、スノキとオオバスノキに似た関係にあるようである。カマツカの名前の由来は材が固いために、鎌などの農具の柄に利用されたことから。ウシゴロシの別名もあるが、サワフタギもウシゴロシの別名を持つ。サワフタギの場合はルリミノウシゴロシと呼ばれている。果実の形がカマツカに似ていることに由来するらしい。

葉は互生または輪生。リンゴと同様に長枝と短枝を形成する。短枝は先端に花芽を分化する。長枝の葉は互生、短枝は輪生状に葉を着ける。葉の形は楕円形から卵形で、先端が鋭くとがる。葉縁には細かい鋸歯がある。ワタゲカマツカはカマツカより葉が大きく、卵形に近い。葉柄と葉裏には軟毛が密生する。

花は頂性。散形花序であるが、リンゴのように中心花と側花の区別はない。花弁の色は白、ウメのように丸まった小さな花弁を5枚着ける。雌しべの柱頭も5本。雄しべは20本、葯の色は淡黄白色である。秋には赤く着色した仁果(花托が肥大したナシ状果)を多数つける。

農具の柄に使用されるほどなので、山には沢山自生していたはずだが、山を散策して出会うことはめったにない。恐らく、長い営みの中で採りつくされたのではないかと思う。カマツカは株立ちしていることがほとんどで、節は少なく、太さもそろっていて確かに、細工するには便利だと思う。



## 第193回自然観察会案内：大作山・春の植物観察会

日時：2024年4月21日（日）8：00～15：30

集合場所 小鳥の森駐車場または大作山記念広場駐車場

大作山記念広場駐車場に直接行かれる方は、申込時に連絡をお願いします

集合時間 小鳥の森駐車場 8:00 大作山記念広場駐車場 9:00 参加定員 20名

内容 大作山の山頂を経由して散策路を周回して、スマレや春の樹木の花を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、ごみ袋

\*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：4月19日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

## 西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(詳細は佐藤守まで)

ロープ設置作業の一般公募を継続します。公募は天元台側とデコ平側に分けて募集します。

1. 実施日：西大巔鞍部は平日、西吾妻小屋側は週末に実施します。

作業山域：西大巔鞍部

2024年6月11日(火)6時30分～16時00分(雨天時6月12日(水)に順延)

作業山域：天元台～西吾妻小屋(NF米沢と共同で実施します)

2024年6月15日(土)6時30分～16時00分(雨天時6月16日(日)に順延)

天元台湯本駅からのロープウェイ・リフト代は会から援助します

2. 定員：20名程度(山岳での行動において自己管理のできる方)

3. 内容：各山域の登山道誘導ロープの設置作業と近自然工法による整備作業を行います。

4. 集合場所：四季の里交差点正面入口駐車場 6時30分または事前連絡により11日はグランドコスキ一場駐車場 8時00分、15日は天元台湯元駅 7時00分

5. 申し込み：6月10日(月)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

ボランティア作業に係るロープウェイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)

郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

新型コロナウイルス感染を避けるため観察会、ボランティアに参加される方は以下の点に留意してください。

- ・ 自宅を出る前に検温をお願いします。
- ・ 体調の悪い場合は、無理しないでキャンセルの連絡をください。
- ・ マスクをご持参願います。

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第128号 2024年3月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://adumatakayama.justhpbs.jp/index.htm>

(URLが変わりました)

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田